

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 11 月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100815
法人名	医療法人 常清会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム風と光
所在地	鹿児島市紫原4-4-2 (電話) 210-5241
自己評価作成日	2015年7月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム風と光は、紫原の中心部にあり交通の便がとても良い複合施設内にあります。施設内には保育所・食堂・高齢者専用賃貸住宅・就労支援事業所・生活介護事業所・介護支援センター・発達支援センターがあります。保育所の子供達とは、定期的に触れ合いの機会を持っております。グループホームでは、昼食のみそ汁・小鉢、日曜日のメイン、毎日のおやつは作っていますが、その他は食堂の提供によるもので介護にもゆとりが持て、ご利用者様の余暇活動の充実に取り組んでいます。光ユニットからは桜島が眺望でき、屋上広場や直ぐ近くに公園もあり季節を感じる事ができます。同フロアに2ユニットあり、歩行運動やカラオケ等、ご利用者様同士の交流も十分に図れています。又、職員間は協力し合いご利用者様の介護に取り組んでいます。毎週金曜日には外部講師による詩吟があり、詩吟や和歌を楽しんでいます。他、大学生のボランティア受け入れ・中学生の職場体験受け入れ等を実施しており、地域との交流が途絶える事が無い様にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<理念の共有>
・人権の尊重とその人らしさを大切にすることを理念に含み、年度目標でも改めて尊厳の尊重と利用者、家族の思いに配慮した介護の実践と介護の質と技術、知識の向上を掲げ、各種資格の取得や勉強会、研修会に積極的に参加している。

<人権の尊重とプライバシーへの配慮>
・理念や年度目標に盛り込まれているように利用者の思いや意向を、言葉で上手く伝えられなくとも日頃から寄り添うことで感じ、理解につなげるよう努力している。
・声をかける際は、優しく語りかけるよう配慮し、職員が感じたことを自由に記入できる「連絡ノート」を活用して、朝夕の申し送り時に情報を共有し、職員全員で処遇にあたっている。

<食事、入浴を楽しむ>
・食事は基本的には1階の食堂か主菜が提供されているが、献立を立てる際に食べたい物のリクエストを加えたり、行事食や外食を楽しむ機会も企画しており利用者や家族から喜ばれている。
・檜風呂と安全に配慮した畳敷きの洗い場等により、毎回楽しく入浴することができている。また、浴室の清掃は毎日専門業者に依頼するなど衛生面にも十分配慮がなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者様の生活の場としてその方の基本的人権を尊重し、安全にその方らしく毎日を心穏やかに生活して頂けるようにその方一人々に合った生活支援に努めています。	理念は意識しやすいよう各ユニットの玄関に掲示するとともに、職員のネームプレート裏に書き込まれている。理念を基に職員全員で意見を出し合い考えた年度目標も掲げており、本年度は人権の尊重と思いの把握、職員の資質向上に向けた取り組みについてを掲げ、実践状況を職員間で話し合って評価を行い、サービスの向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職場体験や外部ボランティアの受け入れを実施し、夏祭りや避難訓練の時は地域の方にもお知らせをし参加して頂ける様、外部との交流が途切れる事が無い様に援助を行なっています。	紫原地区で開催された消防訓練に利用者とともに参加したり、事業所主催の夏祭りにボランティアや地域住民に参加してもらい交流を図っている。また、3階の保育園児達の来訪や卒園式への出席、中学生の職場体験等も積極的に受け入れている。近くの公園に散歩に出かけた時は地域の方と挨拶を交わすなど日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議にて参加して頂いている民生委員・ご家族様と毎回勉強会を実施しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの報告やGH内での行事・取組等の報告を行ない、その中で民生委員の方や、地域包括職員の方から助言を頂く。又、ご家族からの要望・意見等をお聞きし議事録にして全職員につたえサービス向上に繋がっている。	会議には家族や民生委員のほか、行政職員や臨床心理士らも参加し、事業所の行事や入居状況の報告、ヒヤリハット、認知症等毎回テーマを決めた勉強会を開催している。特にヒヤリハットについては、原因から今後の対応策までを徹底して話し合い、再発防止につなげるよう努めている。参加者から筋力強化について意見が出されたこともあり、現在、作業療法士によるリハビリの指導を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>不明な点等あった際は、市役所等に問い合わせを行ない助言を頂き協力関係を築けるように取り組んでいる。</p>	<p>行政職員や地域包括支援センターの職員とは運営推進会議や介護認定申請時に顔を合わせるほか、おむつ支給申請時や保護課職員とも連絡を取り合うなど日頃から連携を図っている。また、包括支援センターからの入居状況の問い合わせや行政からの研修案内など、相互に連絡を取り合い情報交換を密に図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は、夜間帯のみ実施。帰宅願望の強い利用者様には寄り添い・声掛け見守りのケアを徹底して実施し必要以上の施錠等行わない様になっている。身体拘束に関しては定期的に勉強会を実施。職員の共通理解が出来ている。</p>	<p>入居時に重要事項説明書や「身体拘束廃止に関する指針」により身体拘束について説明しており、身体拘束廃止委員会によるスピーチロックや虐待等の研修会を年2回程度実施している。言葉による行動制限やスピーチロックについては、その都度職員間で声を掛け合うなど注意し合っている。万一のことを考え玄関にはセンサーも設置しているが、普段から職員間の見守りを徹底し、利用者の自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に努めているが、職員の意識統一がまだ出来ておらず不十分な状況である。今後も勉強会が必要である。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度に関しては、勉強会を実施。職員は共通理解が出来ているが今後も勉強会が必要である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約を結ぶ時点で十分な説明を行ない、分からない所や不安な所は尋ねやすい雰囲気作りを行ないご家族が契約内容の理解・納得が得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様やご家族からの意見・要望は、全職員にミーティング時や毎日の申し送り時に報告、又連絡帳・個人ケース記録等に記載し、全職員に周知徹底を図っており、要望等に関してはその改善に努めている。	利用者の意見や思いは、毎日の生活の中で見せる言動や表情などから汲み取るとともに、なるべく本人からの言葉を引き出すようにしている。家族からは訪問時や運営推進会議、家族会の機会に意見を伺っている。日頃、職員が気付いたり感じたことは「連絡ノート」に記入して、朝夕の申し送り時に職員間で情報を共有し、対策を話し合って改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングを行ない職員の意見を反映出来る様になっている。ミーティング以外でも毎日の申し送り等で出た意見も必要があれば直ぐにケアに反映出来る様に努めている。	職員の意見や提案は、毎月のミーティング時に聞き取るようにしており、個人的な相談や要望等には、個別面談で対応している。出された意見・要望は、職員間で十分に話し合い、速やかに対応しケアや運営に反映させている。職員の異動については、利用者の生活を考慮して、影響が少ないように行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今後、職員の個人面接を実施予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GH内研修を毎月実施。又、外部研修も全職員が参加できるように、その職員の能力に応じた研修参加の機会を確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、同業者との交流は無い状態。関係作りの構築が必要である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期の段階ではその方への寄り添い・声掛け・話の傾聴を行ない、他利用者様・職員との信頼関係の構築、安心した関係が築けるように援助を行っている。。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談の時点で御家族・本人様からGHで生活する上での問題点・要望等の聞き取りを実施し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前より本人・家族との十分な面談を行ない、その方に必要な福祉用具・サービス利用の検討を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方一人々を人生の先輩として人権を尊重し生活の知恵や、昔の出来事、料理の仕方等を教えて頂いたり、洗濯物や家事等を一緒に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や病院受診、外出・外泊、園外活動へのご家族参加等出来るだけ協力を頂き利用者様を中心に支えあっている関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂き行きつけの理髪店・病院・華道教室参加、又は御自宅への外泊等を行ったり、昔馴染みの友人様の面会等など馴染みの関係・場所が途切れない様に支援をしている。	これまでの人間関係や馴染みの場所をセンター方式のアセスメントシートに落とし込み、電話の取り次ぎや訪問など家族の協力をもらいながら支援している。また、知人や友人らの来訪時は、居室等でゆっくり面会できるように配慮し、外出内容についてもケアプランに記載するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しスムーズにコミュニケーションが図れる様に職員は仲介に入り余暇活動の提供を実施。孤立せずに関わり合い・支え合える様利用者様同士で声を掛けあえるような関係作りの支援を実施。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援実施は出来ておらず。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人フェイスシートを元にその方の意思や希望を尊重し、決して強制する事のないケアに努めている。	入居時や家族の来訪時に思いや暮らし方の希望を聞いており、入居後も日常の中で見せる言動に注意しながら見守りをするなどして思いの把握に努めている。把握した内容は連絡ノートに記録して、申し送り時や職員会議で話し合い、本人本位の暮らしが実現できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より本人・ご家族より情報収集を実施。又随時本人様からも話を聞き、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の声かえ、バイタルチェック等を行なう事により職員は随時状態変化の把握を実施。常に利用者様の身体状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は、アセスメント表作成後、ご利用者様・ご家族と担当者会議を行ない、主治医に意見を求め利用者様・ご家族様・その他関係者の意見を総合し利用者様のニーズに沿ったケアプラン作成を実施。	利用者、家族の思いや意向をケアプランの中心に据え、ケアチェック表を活用してモニタリング結果や職員の意見を集約し、利用者や家族との話し合いを基にケアプランを作成している。また、主治医からも専用の連絡シートを活用して具体的な意見をもらいプランに反映させるなど、毎日のケアの実践につながるよう考慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの結果・本人の行動・発言等を細かくケース記録に残し職員間での情報共有・問題点がある際は問題解決を図りそれらを元にモニタリングとして記録に残しケアプラン見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族同伴の病院受診が困難な時は職員が同行を実施。出来る限り利用者様が必要なサービス提供を行なう様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや公園などの地域資源と共に暮らしていける事を感じてもらい安心して豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携や利用者様個人のかかりつけ医とも適切な関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医をアセスメントシートに記録し、家族の同行を基本に個々のかかりつけ医を受診している。受診の際は事前にバイタル内容が記入された用紙を家族に渡したり、事前に電話で状態を伝えており、受診の記録は「個人ケース記録」に記載し、申し送り時に確認し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様の変化に気づいたら医療連携機関に報告し適切な対応・支持を仰ぎ直ぐに病院受診が出来るように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご利用者様の入院時に十分な情報提供を行い、退院時にも、病院のソーシャルワーカーの方達との連携を密に図り関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りに関しては、夜間帯での協力医療機関の確保が困難、又グループホーム内での日常的な医療提供が困難な為、平成26年10月より廃止し、その旨に関してはご家族に文書にて報告している。重度化に関しては日常的な医療提供が困難な為、状況に応じて、協力医療機関・ご家族との話し合いの元、入院等の支援を行っている。</p>	<p>重度化した場合でも可能な限り支援していく意向だが、医療行為が必要になった際には本人や家族、医師との話し合いの下で医療機関に入院となるケースがほとんどであったため、昨年10月より、看取りまでの支援は行わない方針とした。今後は重度化した場合の支援方法等について学ぶため研修会に積極的に参加したい意向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の訓練や、勉強会は定期的に実施している。今後も継続して勉強会を行っていく必要がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>6ヶ月毎に避難訓練を実施。GH内自主訓練は出来ておらず。今後は定期的にGH内の自主訓練を実施していく。地域の方の協力体制が不安定な為、今後協力体制の構築を行っていく必要がある。</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を年2回実施しており、訓練を運営推進会議と併せて実施したことでメンバーの参加は得られたが、近隣等の地域住民については、訓練への参加を呼び掛けるプリントを配布したが参加までには至らなかった。備蓄については、ホーム毎に飲料水を備えており、1階の食堂に約1週間程度の食料と母体医療機関にも十分量の飲料水や食料が確保されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち、その方の人格やプライドを傷つけることがない様に声かけを実施。	利用者の尊厳の尊重と思いに配慮した介護の提供を年度目標に掲げるとともに接遇に関する研修を年2回程度開催し、日頃からも言葉がきつくなならないよう優しく語りかけるようにして接している。また、利用者が安心できるように、声かけ等を統一したり、さり気なくトイレに誘うなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して本人の思い・希望等を汲み取る事が出来き、それが、自己決定に繋がるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないように、レクレーション等も強制することなく、利用者様の気分やペースに応じ、日々の暮らしが本人の希望に添える様なケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容を利用している。又、毎朝の更衣・整髪・ひげ剃り・洗顔等の声かけ・援助を行い身だしなみに・おしゃれ等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや昼食の下ごしらえ、片付け等を手伝って頂く。又、小鉢の献立作りの際に御利用者様の意見を反映させてその四季それぞれのメニューを献立に反映させ楽しみ作りに繋げている。	主菜は1階の食堂からの提供だが、ホームで作る小鉢と合うメニューとなるよう事前に打ち合わせており、また、利用者の好みの物、食べたい物等伝えて対応してもらっている。行事食については、誕生者のリクエストに応えたり、ケーキのトッピングを楽しむほか、年4回程度は外食に出かけるなど、食事を楽しむことを大切に考え支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に必要な栄養摂取量を把握し確保出来る様に支援を実施。水分はこまめな摂取声掛けを実施。水分摂取が進まない方に関してはご家族の協力を頂きその方の嗜好に合った水分提供を実施し脱水に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要な方は一部介助を実施。口腔内の清潔保持に努めている。自立の方に関しても声掛け・見守りを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄パターンの把握を行なう為に排泄チェック表を利用し随時トイレ誘導を実施。排泄自立に向けた支援を行なっている。	個々の排泄チェック表を作り、尿量やトイレ誘導の時間、尿取りパットの使用状況等について詳細に記録し、パットやリハパンツを布パンツに切り替えるなど日頃から支援策を考え取り組んでいる。また、これらの一連の工夫については、ケアプランに組み込み、声かけや誘導方法を含め職員全員で考え対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便がある様に水分補給・繊維質の食べ物の摂取・腹部マッサージの実施・軽体操の実施。必要に応じて主治医より下剤等処方して頂き、排便状況に合わせて服用して頂き便秘の防止に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意向を確認して入浴を行っているが、その日の状況で行えない時もある。必ず1人ずつの個別入浴支援を実施している。	特に入浴日や入浴時間は決めておらず、利用者の意思を確認して希望の時間に入浴できるよう支援している。気持ちよく、また、安全に入浴してもらえるようにと浴槽は檜造り、洗い場は防水加工された畳を敷いている。介助する職員は可能な限り同性とすることで羞恥心にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂けるように日中の活動の充実を図っている。日中も利用者様の身体状況に応じて休息を促している。気持ち良い睡眠が得られるように環境作りも実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関して職員は理解し薬の副作用・症状の変化等絶えず状態観察を実施。誤薬を防ぐ為に日付・名前を2名以上で確認し服薬介助を実施、誤薬防止に努めている。今後も薬に関しての勉強は絶えず実施していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動の時間を設け利用者様1人ひとりの能力に応じた個別レクレーションの提供を実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出支援は難しいが御家族の協力を頂き園外に出かけられるように努めている。普段行けない様な場所には月1回の園外活動を行なっている。	日常的に散歩に出かけたり、屋上で外気浴を楽しむほか、可能な限り個別の買い物にも出かけられるよう支援している。初詣や花見、水族館見学、都市農業開発センターやソーメン流し等、毎月1回は園外活動として外出し、気分転換を図っている。また、歩行の難しい方でも、他の利用者と一緒に楽しく出かけられるよう法人の所有するバスを利用して出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある際は、残金でどの位買えるのかを考えてもらったり、買い物外出時の支払いをしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により手紙・電話のやりとり等行える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた飾りつけを利用者と共に作成実施。ベランダにて野菜や植物の栽培を行ないご利用者様には季節感を目で感じていただいている。彩光や空調にも気を付け、トイレや浴室は清潔を保ち気持ちよく利用して頂けるように努めている。</p>	<p>日当たりのよいフローアーには利用者と職員が一緒に作った季節の作品や写真が飾られ、明るく楽しい雰囲気を感じられる。浴槽は檜造りとなっており、両側から出入りできる広い空間が設けられ、洗い場には畳が敷かれるなどこだわりが感じられる。また、浴室内と脱衣場との温度差が少なくなるようエアコンにて温度調整を行なっている。トイレは各ユニットに3箇所ずつ設けられ、車椅子の方や職員の介助スペースが十分確保された造りとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様同士が楽しく過ごして頂ける様に座席配置等工夫を行なっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具等を持って来て頂いたり、写真を飾ったり等、ご利用者様にとって居心地の良い環境作りに努めている。</p>	<p>居室にはエアコンとベッド、チェスト、洗面台が備え付けられており、レイアウトは個々の身体状況に応じて工夫しながら対応している。また、自宅からテレビや仏壇などを持ち込まれ個性豊かな居室作りが行われている。居室の掃除は利用者と職員が一緒に行っており、日頃から清潔に保たれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>てすり使用・トイレの表示など利用者様が使用しやすく安全な環境で生活して頂けるように努めており、利用者様一人々の自立を促す支援を行なっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない